FRI Business Incubation News

2006年5月23日

「設計プロセス評価指標」

現場の強さを生かした「評価指標」が重要

わが国は「ものづくり」で世界の先端を走っているにもかかわらず標準は欧米から導入してきました。欧米メーカーがマニュアルを使ったトップダウン型であるのに対して、わが国の良さは「すりあわせ」にあります。たとえば、ルールでは対処できない問題が出たときには現場の設計者たちが一緒になって仕事をすることで、より適切な解決を実現してきました。この現場の強さを評価した標準を提唱して、製造業の競争力維持強化を実現しようというものです。

ＪＥＩＴＡ（電子情報技術産業協会）が標準評価指標を制定

電子機器、電子部品を中心として526会員を擁するJEITAでは、標準化委員会7社による「設計プロセス標準化グループ」を立ち上げ、富士通総研が全面的に支援して評価指標を作ってきました。設計プロセスにおけるメーカーの能力レベルを適切に診断して、問題点を発見し改善の方向性を見出すことができます。

世の中にはISO9001やCMMなど既存の評価モデルがありますが、この評価指標は設計プロセスにおける「現場力」に着目してプロセス改革につなげていく点に特色があります。

狙いは仕事のスタイルの継続的改善です

グローバル化が進む中で、ものづくりの最上流の設計はわが国産業にとって生命線です。得意技を生かした仕事のスタイル（あるべき姿）に向けた改善への「気付き」が狙いです。

問い合わせ先　富士通総研　産業コンサルティング事業部
Tel:03-5401-8397　担当：郷、麦島、小川、加藤

解　説

ITなどのツール支援もより的確に

設計フェーズを持っているメーカーに、この評価指標を当てると弱点が見えてきます。それは以前から感覚的に分かっていたかもしれませんが、独自の言葉で表現するために中々外部の人の理解が得られませんでした。この標準評価指標に照らせば共通の言葉で表現することができます。そうすれば、IT支援についてもより的確なやり方が見えてきて、現場に喜んでもらえるIT支援につながっていきます。

中堅・中小企業で使えるか

企業規模に合わせて、評価（テーラリング）や改善目標を設定できるようになっています。設計フェーズを持っている企業であれば、規模の大小を問わず活用できます。

設計も海外シフトするか

これからの製造業は、マーケット密着型とハイテク（高度技術）型に分かれるといわれています。前者であれば、設計フェーズも徐々に海外にシフトするでしょう。それに対して後者の開発、設計は国内に残るとされています。競争が激化する中で継続的なR&D投資が鍵となります。

All Rights Reserved, Copyright © Fujitsu Research Institute 2006